

レジャー施設利用者の交通行動分析

名古屋工業大学	○学生員	古市 英士
名古屋工業大学	学生員	柴田 俊治
名古屋工業大学	正 員	松井 寛
名古屋工業大学	正 員	藤田 素弘

1. はじめに

近年、労働時間の短縮に伴う余暇時間の増加により、休日における人々のレジャーへの関心は増大する一方である。ハード面でも人々のニーズに対応すべく魅力のある施設の建設・整備が進められている。こうした現状のなか、レジャー施設に関する施設計画・輸送計画・道路整備計画の重要性は高まり、これらの検討を行う上では、人々のレジャー行動の分析が必要とされるが、従来、休日での観光交通行動は多目的でありかつ自由度が高い点などで日常交通とは異なり予測が困難であるとされてきた。しかし、最近では非集計ロジットモデルを用いた行動選択モデルなどの有用性が多くの研究によって示されてきている。

そこで本研究では、レジャー施設での1日の行動や施設に対する意識についてアンケート調査を実施し、レジャー行動モデルを構築するための手がかりとして、入場者の動向の要因分析を行う。

2. アンケート調査の概要

調査は、平成4年12月6日(日)に愛知県犬山市の博物館・明治村において入場者に当日のアクティビティや行動時刻を記入する調査用紙を入場ゲートにて(原則として入場者全員に)配布し、退場ゲートにて回収を行った。配布数は2000部で有効サンプル数は1047であった。

3. アンケート調査結果

(1) 単純集計結果

個人属性別の単純集計結果は以下の通りである。

「当日の入場者のグループ別の内訳は、友人・同僚(全入場者数中(以下同様) 26.2%)、デート(25.7%)、家族(21.1%)、団体(22.9%)、その他(4.1%)、交通手段別の内訳は、マイカー(54.7%)、公共交通(14.6%)、観光バス(27.2%)、その他(3.5%)、出身地別では、愛知県(29.2%)、岐阜、三重、静岡県(20.5%)、中部(3.7%)、関西(27.7%)、関東(15.5%)、他県(3.3%)という結果になり、愛知県以外の遠隔地からも多数の来場者が見受けられた。また、「当日、入場前にどこかへ寄ったか」という質問に対しては、寄った(他の観光地(25.3%)、その他(6.2%))、寄らなかった(68.5%)、また「当日、退場後にどこかへ寄る予定があるか」という質問に対しては、寄る(他の観光地(21.9%)、その他(18.4%))、寄らない(59.7%)」

(2) 入場時刻分布の個人別特性

入場時刻別の入場者数を図-1に示すが、分布の特性を明らかにするために「入場前にどこかへ寄った、寄らなかった」という2つの回答別に入場者数を示した。入場者のピークは11時と13時の2箇所に見られたが、図-1より11時でのピークは自宅または宿泊地から直接入場した人のピークであり、13時は入場前に別の訪問地に立ち寄った人のピークである。このように入場前に別の訪問地へ立ち寄ったかどうかというのは、その時刻での入場者数に大きな影響を与える。

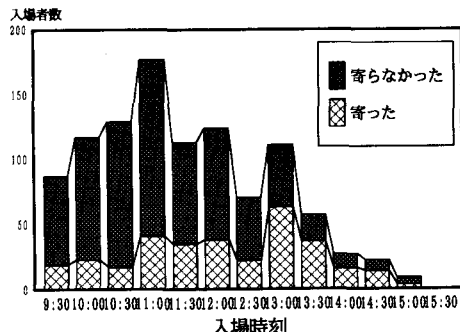


図-1 入場時刻分布

(3) 滞在時間の個人別特性

滞在時間を決定する要因には、個人の興味などによる内的要因や、時間や同伴者などによって制約を受ける外的要因によるものなどが考えられる。ここでは様々な要因ごとに平均滞在時間を求め考察を行う。また全サンプルによる平均滞在時間は2時間57分であった。

(イ) 入場時刻別 (図-2)

明治村のような短時間滞在者の少ない施設では物理的に入場時刻が滞在時間に影響を与える重要な要因であることがわかる。

(ロ) グループ別 (図-3)

(ハ)における観光バス利用者においても同様なことがいえるが、団体客は団体行動という制約のため滞在時間が短くなる傾向にある。

(ハ) 交通手段別 (図-4)

(ニ) 来場回数別 (図-5)

来場回数が多くなるほど滞在時間が長くなる傾向があるが、これは施設への興味が来場回数に比例し増加するためであるとも考えられるが、逆に来場回数が6回をピークに滞在時間は短くなり、施設に対する興味は急激に薄らいでいくことがわかるが、この傾向は個人の施設に対する魅力や興味という漠然とした要因が影響しており数量的な説明が困難である。

(ホ) 入場前の訪問の有無 (図-6)

これは(イ)でも述べたように、入場前に他の場所に立ち寄ることにより、入場時刻が遅くなるため滞在時間は必然的に制約を受けることになる。

(4) 明治村における他の観光地との周遊動向

来場者が、明治村入場前に立ち寄った他の訪問地について目的と観光地域別について分類を行い図-7に示した。犬山市内の他のレジャー施設（モンキーパーク、犬山城、リトルワールドなど）を訪問した人が多く、犬山市は、周遊観光地としての特性を持っていることがわかる。

4. おわりに

今回はアンケート調査結果を集計することにより入場者の動向を分析したが、今後の課題としては、この結果を用いてレジャー施設利用者の時刻選択モデルモデルを非集計ロジットモデルにより構築し、さらに周遊行動の分析を行うことによりレジャー施設の魅力についても研究していきたい。

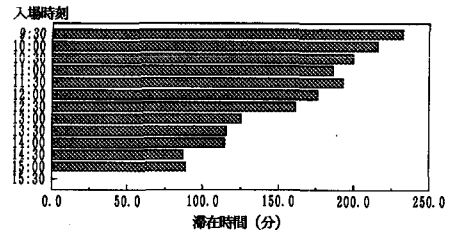


図-2 入場時刻別の平均滞在時間

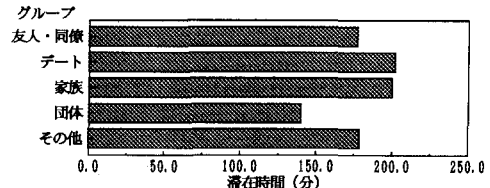


図-3 グループ別の平均滞在時間

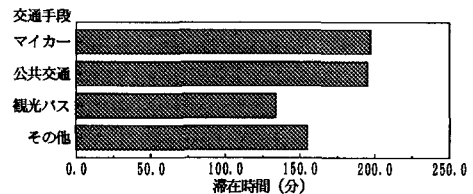


図-4 交通手段別の平均滞在時間

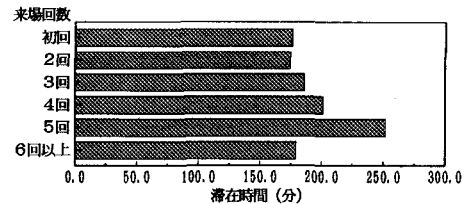


図-5 来場回数別の平均滞在時間

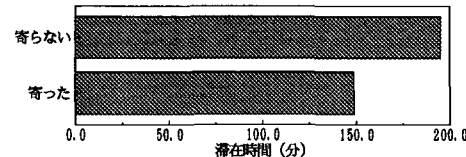


図-6 入場前の他の場所への訪問の有無による平均滞在時間

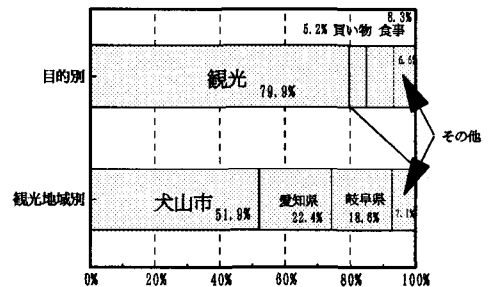


図-7 入場前の立ち寄り先での目的および観光地域